

## BECC JAPAN 2020 プログラム

気候変動・省エネルギー行動会議  
事務局 (株)住環境計画研究所  
2020年6月10日作成

■ 本会議 2020年8月25日(火): オンライン開催

| 時間                   | プログラム   |   |  |
|----------------------|---|---|--|
| 13:00~13:10<br>(10分) | 代表挨拶等   |   |  |
| 13:10~13:15          | 準備・切り替え   |   |  |
| 13:15~14:15<br>(60分) | 基調講演(発表・質疑応答含む)   |   |  |
| 14:15~14:35          | 休憩(20分)   |   |  |
|                      | 会場①   | 会場②   | 会場③  |
| 14:35~15:35<br>(60分) | <u>A1 口頭発表セッション</u><br>“HEMS 導入世帯の<br>エネキ-の使い方”<br>※20分/件×3件  | <u>A2 口頭発表セッション</u><br>“省エネ・環境教育<br>(その1)”<br>※20分/件×3件     | <u>A3 口頭発表セッション</u><br>“デマンドレスポンス/<br>省エネリフォーム”<br>※20分/件×3件   |
| 15:35~15:50          | 休憩(15分)   |   |  |
| 15:50~16:38<br>(48分) | <u>B1 ライトニング発表セッション</u><br>“行動変容に関する<br>自治体等の取組”<br>※12分/件×4件 | <u>B2 ライトニング発表セッション</u><br>“省エネ・環境教育<br>(その2)”<br>※12分/件×4件 | <u>B3 ライトニング発表セッション</u><br>“卒FIT/AIによる<br>エネキ-分析”<br>※12分/件×4件 |
| 16:38~17:00          | 休憩(22分)   |   |  |
| 17:00~18:00<br>(60分) | <u>C1 口頭発表セッション</u><br>“ホームエネキ-レポートによる<br>情報提供”<br>※20分/件×3件  | <u>C2 口頭発表セッション</u><br>“設備/機器の購買の<br>意思決定”<br>※20分/件×3件     | <u>C3 ライトニング発表セッション</u><br>“価値観、動機付け”<br>※12分/件×4件             |

※口頭発表時間(1件当たり): 発表15分、質疑応答5分

※ライトニング発表時間(1件当たり): 発表8分、質疑応答4分

- プログラムの詳細
- Aセッション（口頭発表セッション）

| HEMS 導入世帯のエネルギーの使い方 |      | 司会：未定  |
|---------------------|------|--|
| A1                  | A1-1 | スマートタウン居住者のライフスタイルに関する実態調査<br>市村 知輝（東京工業大学環境・社会理工学院建築学系 修士学生）  |
|                     | A1-2 | 家庭内における省エネルギー行動と意識に関する研究：燃料電池の効果と行動パターンに関する分析<br>坊垣 和明（東京都市大学 名誉教授）  |
|                     | A1-3 | 家庭内における省エネルギー行動と意識に関する研究：集合住宅におけるエネルギー利用の季節変動、住戸・居住者タイプとの関係性<br>吉田 一居（東京都市大学大学院環境情報学研究科 博士後期課程／東急不動産 R&D センター） |

| 省エネ・環境教育（その1） |      | 司会：未定   |
|---------------|------|---|
| A2            | A2-1 | ビジュアルナッジで学校での省エネ行動は促進できるか？：横浜市立小学校における2事例<br>糸井川 高穂（横浜市行動デザインチーム（YBIT）アドバイザー／宇都宮大学地域デザイン科学部 助教） |
|               | A2-2 | 行動変容ステージモデルを活用した省エネ教育プログラムに基づく行動変容効果<br>三神 彩子（東京ガス 都市生活研究所 主幹／東京家政大学 家政学部）                      |
|               | A2-3 | 小学校の環境教育プログラムが保護者の行動に与える影響<br>高口 洋人（早稲田大学理工学術院 教授）  |

| デマンドレスポンス／省エネリフォーム |      | 司会：未定   |
|--------------------|------|---|
| A3                 | A3-1 | デマンドサイドマネジメント（DSM）に対する意識調査結果報告<br>鷺津 明由（早稲田大学 社会科学総合学術院 教授） |
|                    | A3-2 | 戸建住宅の断熱リフォームの普及促進に向けた調査研究<br>前 真之（東京大学大学院工学研究科 准教授）         |
|                    | A3-3 | 断熱リフォーム普及促進のための冊子コンテンツの作成<br>鈴木 智統（東京大学大学院工学研究科 修士学生）       |

■ Bセッション（ライトニング発表セッション）

| 行動変容に関する自治体等の取組 |      | 司会：未定   |
|-----------------|------|---|
| B1              | B1-1 | 日本の地方自治体における“省インフラ”行動による温室効果ガス排出削減効果に関する考察<br>福田 一成（アズビル ビルシステムカンパニー・マーケティング本部 シニアアドバイザー）   |
|                 | B1-2 | 横浜市の小中学生向け普及啓発事業におけるナッジを活用した省エネ行動変容の取組（第一報）：地方自治体におけるナッジ活用の可能性と課題<br>植竹 香織（横浜市役所/横浜市行動デザインチーム）  |
|                 | B1-3 | 環境分野における組織横断ナッジ・ユニット「Behavioral insights Team for Sustainability (BiTS)」（仮称）の設立：持続可能な社会構築に向けた行動変容イノベーションを<br>宇山 生朗（北海道行動デザインチーム（HoBiT）） |
|                 | B1-4 | 気候変動・省エネルギー分野における行動科学（ナッジ）活用の最新動向と社会的インパクト<br>伊原 克将（EY アドバイザリー・アンド・コンサルティング マネージャー）   |

| 省エネ・環境教育（その2） |      | 司会：未定  |
|---------------|------|--|
| B2            | B2-1 | センター試験問題における省エネ行動に関する動向：新学習指導要領を射程に入れて<br>松葉口 玲子（横浜国立大学教育学部 教授）                              |
|               | B2-2 | 小学生を対象にした体験型省エネ教育プログラムの開発<br>赤石 記子（東京家政大学家政学部 講師）  |
|               | B2-3 | 小学校高学年向けの環境教育におけるシール教材の有効性に関する研究<br>粕谷 彩乃（早稲田大学大学院 創造理工学研究科 修士学生）                            |
|               | B2-4 | 家庭における親子の省エネルギー意識・行動の定着に関する研究：その3 介入方策による居住者の意識・行動・エネルギー使用量の変化<br>高田 宏（広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授） |

| 卒 FIT/AI によるエネルギー分析 |      | 司会：未定  |
|---------------------|------|--|
| B3                  | B3-1 | 卒 FIT 世帯の蓄電・蓄熱設備導入状況に関する調査<br>岸田 真一（住環境計画研究所 主任研究員）                        |
|                     | B3-2 | 電力ビッグデータを用いた家庭用太陽光発電・蓄電システムの分析<br>小澤 暁人（産業技術総合研究所 ゼロエミッション国際 共同研究センター 研究員） |
|                     | B3-3 | 住宅エネルギー消費削減に向けた AI 活用の可能性<br>本田 智則（産業技術総合研究所 主任研究員）                        |
|                     | B3-4 | AI を活用した新たな省エネルギーサービス Enneteye<br>五郎丸 章裕（エネット 経営企画部 新ビジネス開発室長）             |

■ Cセッション（口頭発表・ライトニング発表セッション）

| ホームエネルギーレポートによる情報提供 |      | 司会：未定   |
|---------------------|------|---|
| C1                  | C1-1 | ホームエネルギーレポートによる省エネ効果の地域性・持続性に関する実証研究：省エネ効果の季節性と経年変化<br>平山 翔（住環境計画研究所 主任研究員） |
|                     | C1-2 | ホームエネルギーレポートは誰を「ナッジ」したのか？：他世帯比較とグループインタビューによる一考察<br>小林 翼（住環境計画研究所 研究員）      |
|                     | C1-3 | 動画コンテンツを活用した省エネ情報提供の有効性評価<br>信國 恵美（電通 ソリューション・デザイン局 ストラテジスト）                |

| 設備/機器の購買の意思決定 |      | 司会：未定  |
|---------------|------|--|
| C2            | C2-1 | 日常生活における省エネ行動の実践度と給湯器選択における省エネ型購買行動との関係<br>天野 晴子（日本女子大学家政学部 教授）                |
|               | C2-2 | 省エネルギー性能以外の価値(NEV: Non-energy-value)を活用した省エネルギー機器普及促進事業<br>土屋 友和（住環境計画研究所 研究員） |
|               | C2-3 | 大規模消費者パネルからわかる省エネ家電買換え動向<br>甲斐 聡（インテージ DCG・サービス事業本部 主任研究員）                     |

| 価値観、動機付け |      | 司会：未定   |
|----------|------|---|
| C3       | C3-1 | ガス機器の利用状況に応じたレコメンド効果について<br>岡本 秀樹（大阪ガスマーケティング 商品技術開発部）                        |
|          | C3-2 | エネルギー消費行動に対する価値観影響の理論化に向けて：第2報<br>大塚 彩美（早稲田大学 社会科学部 講師）                       |
|          | C3-3 | 省エネルギー行動のきっかけと意識および行動の変化：実体験/非実体験と個人の価値観に着目して<br>厨川 拓海（横浜国立大学大学院 環境情報学府 修士学生） |
|          | C3-4 | 省エネ設備導入の促進・阻害要因を探る：インターネット調査による検討<br>安藤 香織（奈良女子大学大学院生活環境科学系 准教授）              |